

アセスメントポリシーによる学修成果及び教育効果の検証 **アドミッションポリシー**

		アドミッションポリシー	
		資料	結果と解釈
機 関 レ ベ ル	①各種入学選 抜	<p>入学生の評定平均値の平均は 3.84 点（標準偏差 0.50、最高値 5.0、最低値 3.1）、小論文試験の平均点は 76.78 点（標準偏差 6.70、最高点 92、最低点 66）、面接試験の平均点は 77.19 点（標準偏差 7.13、最高点 98、最低点 68）であった。</p> <p>今年度は、アドミッションポリシーに合致する学生を募集することができたといえる。</p>	
	②学生調査	<p>短期大学生調査から、本学が第一志望であった割合が 93%（全国平均 88%）であった。また、本学に進学を決める際に重視した点として、「就職するのに必要な資格が取れる」の項目に 93%が「重視した、やや重視した」と回答している（全国平均 88%）。</p> <p>専門職として、社会で活躍するという高いモチベーションを持った学生が入学していることが伺える。</p>	
教 育 課 程 レ ベ ル	③各種入学選 抜	<p>本学は単学科となるため、機関レベルと同一となる。</p>	
科 目 レ ベ ル	④入学前課題 の確認試験	<p>2023 年度入学生の一般教養テスト結果を 2021 年度（いずれも 65 点満点）と比較すると、平均点は豊岡キャンパスで 25.95 点、姫路キャンパスで 25.64 点であり、例年と同程度であった。このことから、入学生の学力は一定程度維持できていると考えられる。学力面で平均よりも遅れを取っている学生に対しては、学習上の支援が必要となる可能性がある。</p>	

アセスメントポリシーによる学修成果及び教育効果の検証 **カリキュラムポリシー**

		カリキュラムポリシー	
		資料	結果と解釈
機 関 レ ベ ル	①退学状況	・令和4年度 入学41名 退学2名、休学0名	
	②休学状況	・令和5年度 入学34名 退学0名、休学0名	
		退学者数は入学生数に対して低い水準にとどまっており、教育・学生支援の成果が見られる。	
	③短期大学生調査	<p>・学習意欲、学修行動に関する項目</p> <p>「Q11 あなたが受講した授業では、次のようなことはどのくらいありましたか。」の質問項目は、4件法（よくあった、ときどきあった、あまりなかった、まったくなかった）で調査を行った。「よくあった」及び「ときどきあった」を合算した割合（以後、「あった」と表現）が、全国平均と10ポイント以上乖離しているものについて次に取り上げる。</p> <p>「体験的な学習（実習、実験、フィールドワーク）」は、「あった」と回答した学生の割合が90%（全国平均79%）であった。1年次から授業としてキャリアアップにおけるインターンシップ等の取組みがあるため、高くなっていると考えられる。その他、「正解や答えのない問題や課題について考える」の項目は77%（全国平均66%）、「授業をつまらなく感じた」の項目は54%（全国平均64%）、「授業に遅刻や欠席をした」の項目は34%（全国平均45%）であった。</p> <p>こども学科としては、より魅力的なカリキュラムの整備、また各教員はより魅力ある授業の実施に日頃から努めているため、上記の項目に関しては、成果が表れていると考えられる。学生も、全国平均に比べて遅刻や欠席が少なく、授業を大切にす姿勢が比較的保たれている。</p> <p>一方で、「プレゼンテーションをする」は、「あった」と回答した学生の割合が54%（全国平均65%）であった。この結果は直ちにネガティブなものとも限らないが、授業実施方法のバリエーションとして、プレゼン形式での発表は、全国平均と比較すると行われていない傾向にあることが読み取れる。継続的なFD活動により、各教員が様々な方法を模索していくことが望ましい。</p> <p>・成長実感に関する項目</p> <p>「Q19 今の短大に入学して、あなたの能力や知識はどの程度変化（向上）しましたか。」の質問項目は、5件法（大きく増えた、増えた、変わっていない、減った、大きく減った）で調査が行われている。「大きく増えた」及び「増えた」を合算した割合（以後、「成長実感がある」と表現）が、全国平均と10ポイント以上乖離しているものについて次に取り上げる。</p> <p>「一般的な教養」の項目は、成長実感がある学生の割合は、84%（全国平均</p>	

		<p>75%)であった。また、「他の人と協力する力」86% (全国平均 77%)、挑戦する力 (チャレンジ精神) 72% (全国平均 61%) であった。</p> <p>「地域や社会に貢献する意欲」の項目は、成長実感がある学生の割合は 64% (全国平均 51%) であった。地域ボランティアの授業や地域交流活動が奏功していると考えられる。</p> <p>「プレゼンテーションをする力」の項目は、成長実感がある学生の割合は 39% (全国平均 53%) であった。「PC など情報機器を使う力」の項目は、成長実感がある学生の割合は 50% (全国平均 68%) であった。PC に関しては、今年度から情報リテラシーの授業を前期開講としており、次回の短期大学生調査にはその結果が反映できると考えている。</p>
	④学生満足度調査・学修行動調査	<p>本学が実施する学修行動調査において、「授業の予習時間」の項目で「全くしていない」、「ほとんどしていない」を選択した学生は 52% (R4 は 60%)、「授業の復習時間」の項目では「全くしていない」、「ほとんどしていない」を選択した学生は 16% (R4 は 17%) であり、復習中心の学習習慣となっていることが読みとれる。学習は、予習・授業・復習をバランスよく行うことが望ましく、適切な予習課題の設定を教員に求めていく必要があると考えられる。</p> <p>また、「勉学や進路など、学生生活について教員や職員に相談する」の項目では、「まったくない」、「ほとんどない」を選択した学生が 45% (R4 は 67%) となっており、昨年度より改善が見られるが、引き続きオフィスアワーの運用や周知について検討する必要があると考えられる。</p> <p>なお、これらのことは令和 5 年 9 月の教授会において教務学生課から報告があった。</p>
教育課程レベル	⑤GPA	<p>GPA は平均が 2.51 (中央値 2.65、最大値 3.56、最小値 0.95、標準偏差 0.65)、3.5 以上が 2 名、3 以上 3.5 未満が 7 名、2.5 以上 3 未満が 11 名、2 以上 2.5 未満 7 名、1.5 以上 2 未満が 3 名、1.5 未満 4 名であり、このことから、学生は「科目内容を修得し、学習成果を獲得している」と判断できる。</p> <p>手厚い学生支援・指導の対象となる 1.5 (目指す学習成果の獲得基準) 以下の学生は、4 名 (11.8%) であった。</p>
	⑥単位習得状況	<p>目的に合わせた最適な算出方法を検討しており、今回は除外する。</p>
	⑦カリキュラムマップに基づく学習成果別評価	<p>本学の学習成果として、専門的学習成果と教養的学習成果を定めており、それぞれの割合は以下の通りである。</p> <p>教養的学習成果において、GPA 平均 2.0 以上の評価を受けている学生の割合は、①91%、②73%であった。</p> <p>専門的学習成果において、GPA 平均 2.0 以上の評価を受けている学生の割合は、①89%、②72%、③88%、④71%であった。</p> <p>このことから、1 年間の学びにおいて、学習成果の獲得が進んでいると判断できる。</p>

	⑧成績評価	目的に合わせた最適な算出方法を検討しており今回は除外する。
	⑨欠席状況	1年生では各科目の出席率の平均が95.5%、2年生では90.0%であった。
科目レベル	⑩授業評価アンケート	<p>令和5年度の前期・後期の授業評価アンケートにおいて、各質問項目に対する回答の平均値は、前期・後期を通していずれも4点前後であり、良好な結果であるといえる。また、「質問16 この授業を、マナーを守って受講しましたか。(居眠り、飲食、携帯電話の使用、私語等)」に関しては、前期4.38、後期4.40と特に高い評価となっており、学習環境として良好な状態を維持できている。</p> <p>また、「予習・復習」の項目に関しては、前期3.65、後期3.81となっており、全項目中最も低い平均点となっている。ただし、「質問15 この授業で与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組みましたか。」に関しては前期4.36、後期4.31となっている。これらの数値は昨年度と大きな変化はなく、真面目に授業に向き合っているが、自発的な予習・復習というよりも、課題を通しての授業外学習が中心となっていることが読み取れ、今後学生の主体的な学習を一層促進していく必要がある。</p>

アセスメントポリシーによる学修成果及び教育効果の検証 **ディプロマポリシー**

		ディプロマポリシー
		結果と解釈
	資料	
機 関 レ ベ ル	①卒業率	卒業生 40 名 (R4 年度入学 41 名、R3 年度入学 1 名、退学 2 名)
	②学位授与数	卒業率：95.2% (小数点第 2 位四捨五入) 学位授与数：40 名
	③就職率	就職率：94.3% (就職希望者 35 名中 33 名)
	④専門職率	専門職率：91.2% (公務員 6 名、私立保育園・幼稚園・こども園 20 名、 福祉施設 5 名、一般企業 3 名)
	⑤進学状況	進学状況：4 年制大学 3 年次編入者 3 名 専門職を中心とした就職状況は良好であり、一般企業等への就職は例年並みであった。
	⑥卒業時アンケート	卒業前の 1 月に、2 年間の大学の進路指導のアンケートを実施している。 進路決定において、「教員からのアドバイス」が突出して高く、次に「実習園の園長・先生」が続くが、大学が進路指導の一環として実施する「進路ガイダンス」や「先輩からの講演」などの評価も高かった。大学教員のアドバイスや進路ガイダンス等が進路決定において役に立っているという学生の評価は、令和 5 年度、様々な進路指導の工夫や改善を行った結果であると考えている。 アンケート結果は、大学の進路指導全般に対する満足度が高く、令和 6 年度に向けても進路ガイダンス等の在り方や教員同士の情報共有による学生に対する進路指導の強化などについて検証し、さらなる改善を図っていきたい。
⑦勤務状況調査	令和 5 年度は勤務状況調査を実施していない。 学生が卒業後の 1 年目、6 月から 8 月にかけて就職先を訪問し、園長・施設長等と面談し、聞き取りを行った。本学の取組を高く評価してもらっているコメントや、期待を込めて建設的に書いてもらったコメントを多く受けた。 また、令和 4 年度は 3 年ごとに実施している就職先アンケートの実施年であった。就職先全ての園・施設・企業等から回答を得ているわけではないが、総じて肯定的な評価を受けており、離職率は 6.7% 程度であった。保育・施設分野に限った離職率の資料はないが、短大を卒業して 3 年後の離職率が直近の調査で全国平均が約 43% であったことを考えると、本学の卒業生は十分健闘しているといえる。 引き続き、本学の特徴である個々の学生に対する懇切丁寧な指導を行うことが、本学の信頼をより一層高めることになると考える。 ディプロマポリシーについて、特に変更等の必要性を示す明確なデータはない。	
教 育	⑧GPA	卒業生 40 名の GPA は平均が 2.33 (中央値 2.38、最高値 3.59、最小値 1.17、標準偏差 0.57)、3.0 以上が 6 名、2.5 以上 3.0 未満が 12 名、2.0 以上 2.5 未

課程レベル		<p>満9名、1.5以上2.0未満が9名、1.5未満4.0名であり、学生は「科目内容を修得し、学習成果を獲得している」と判断できる。</p> <p>手厚い学生支援・指導の対象となる1.5（目指す学習成果の獲得基準）以下の学生は、4名（10.0%）であった。</p>
	⑨資格・免許取得状況	<p>資格・免許の取得状況は、保育士資格35名（87.5%）、幼稚園教諭二種免許状38名（95.0%）であった。9割前後の学生が資格・免許を取得して卒業している。</p>
	⑩単位習得状況	<p>目的に合わせた最適な算出方法を検討しており今回は除外する。</p>
	⑪カリキュラムマップに基づく学習成果別評価(参考)	<p>本学の学習成果として、専門的学習成果と教養的学習成果を定めており、それぞれの割合は以下の通りである。</p> <p>教養的学習成果において、GPA平均2.0以上の評価を受けている学生の割合は、①86%、②75%であった。</p> <p>専門的学習成果において、GPA平均2.0以上の評価を受けている学生の割合は、①84%、②80%、③81%、④72%であった。</p> <p>このことから、1年間の学びにおいて、学習成果の獲得が進んでいると判断できる。2年間の学びの中で、6つ全ての学習成果を獲得し、ディプロマポリシーに合致した人材育成が達せられていると判断できる。</p>